



第18号  
平成27年1月1日発行  
発行者  
藤香会事務局  
092-724-0007  
発行責任者  
毛屋 嘉明

新年明けましておめでとーございます。

平成二十七年の  
新年にあたって

新年を迎えて



藤香会会長 山崎 拓

藤香会は、今年の課題として二つのことに取り組んでゆきたいと思います。

昨年は大河ドラマ



藤香会副会長 毛屋 嘉明

去年は、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映が始まりとても忙しい一年でした。特に、三月

「軍師官兵衛」が放映され、福岡では郷土の歴史についての関心が高まりました。これを一過性のものに終わらせまいよう、私たちは黒田家の遺徳を顕彰しつつ郷土の歴史に対する研鑽を深めてゆかねばならないと考えます。また、自治体やマスコミに対しても私たちの活動を知ってもらうための広報に努めてゆかねばなりません。

もうひとつは、当会の財政基盤の確立です。会員数はここ数年徐々に増えてきましたが、財政面では十分とは申せません。会員の篤志だけでは限りがあります。趣旨に賛同され、郷土のために尽力いただける法人にも参加をお願いできればと考えています。

新年にあたり会員の皆さま、その関係者の方々のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。

二十日の如水公四一回忌法要と顕彰イベントは、藤香会初めての大きな行事となり本邦初の仏教とキリスト教式による法要も実現しました。また、締めくくりとして十二月十四日には「軍師官兵衛」福岡プロジェクト協議会により、放映記念イベント及び黒田サミットも盛大に開催されました。藤香会からも予想を超える参加者があり、十六代当主 黒田長高様ご一家をお迎えして大いに盛り上げました。

今年はまだ初心に返り、藤香会としての息の長い活動を続けてまいります。

それにはまず会員の新規加入の促進が必要です。それも特に若い人の加入を図りたいと思っています。そのためにも会員相互の親睦を図る場を多くし、会を魅力あるものにするこゝも大切であると思えます。

長高様が山笠に台上がり

博多山笠は七月十三日の集団山見せで初めて博多部から福岡部へ入ります。黒田長高様は、七流れのうち千代流れに台上がりされしました。藩主家の当主が山笠に参加されるのは、七三年の長い歴史の中で初めてのことです。また、黒田家の菩提寺でもある崇福寺に昇き入れたのも初めてだった由。

崇福寺の岩月海洞老師は、禪宗は神社のお祭りの山笠がお寺に昇き入れてもこだわらない。仏教であれ、神道であれ、キリスト教であれ、一緒に人々の安寧を祈ってゆける旨の話をしておられました。この考えで、如水公の法要もキリスト教と一緒にを行うことにも拘らなかつたということです。

長高様は、博多祇園山笠が七三年の伝統を持つと聞いて黒田家の福岡での歴史よ



博多山笠千代流れに台上りの長高様

り長い祭りであり、それに台上がりという貴重な体験をしたと話しておられました。

藤香会からは毛屋嘉明副会長、田中崇和理事、長岡鎮廣会員(柳心会宗家)が水法被姿で参加しました。

「軍師官兵衛」にちなんだ  
黒田家サミットが各地で開催される!!

黒田都市サミットが昨年十二月の中津市に引き続き、五月十日には滋賀県長浜市での黒田サミット、十二月十四日には福岡市で黒田サミットが開催されました。また、九月には黒田如水・長政両公と縁の深い竹中半兵衛ゆかりの地である岐阜県垂井町でサミットが行われ、各地の町おこしに貢献しました。藤香会からも理事を初め多くの人々が参加しました。



岐阜県垂井町でのサミット風景

### 博物館で歴史勉強会を開催

恒例の歴史勉強会は会員・一般七十名の参加を得て、九月十一日福岡市博物館で同博物館の主査・学芸員である堀本一繁氏の「軍師黒田官兵衛の生涯」と題して講演がありました。「圧切長谷部」や「日光一文字」、実戦にも使われた名鎧「日本号」また秀吉からの手紙などが紹介され、秀吉が官兵衛を弟同様の人間だと評していたことがわかりました。講演終了後、折から開催中の「軍師官兵衛展」を特別料金で観覧することができました。



講師の堀本一繁氏



### 黒田長政公ご法要

初代藩主長政公の三九二回忌法要が命日の八月四日、崇福寺本堂で執り行われました。朝から雨模様の中、藤香会会員、一般を合わせて約一〇〇名の方が位牌の前で焼香して歴代藩主の冥福を祈りました。大河ドラマ「軍師官兵衛」が放映中であり、NHK福岡放送局長の田口五朗氏がドラマに登場した長政公の場面を振り返りながら、初陣後の活躍をお話になりました。この法要の様子は翌朝の西日本新聞にも掲載されました。

### 史跡めぐり(十月六日) 筑前六宿の内野、飯塚、木屋瀬を巡る

当日は台風一過の好天に恵まれ、会員および家族など三十八名が参加し、主に黒田官兵衛、長政親子の飯塚周辺における足跡を訪ねました。

黒田親子の飯塚周辺での足跡は、黒田家が豊前中津を治めている頃に始まり、官兵衛は既に隠居の身で、名を「如水」と改め、更に朝鮮出兵時の秀吉との確執により頭を剃り、「如水圓清」と名乗っていました。

秀吉没後の「関ヶ原の戦い」における長政公の功績により、筑前五十二万石への移封となり、黒田親子は福岡城築城を契機に黒田藩治世の根幹となる、大きなプロジェクトに次々に着手しました。「黒田官兵衛いづかプロジェクト協議会」会長の竹下茂木氏の細やかな



如水・長政両公ゆかりの西光寺ご住職の講話

### 会員クリック



藤香会会員 徳永良子

私の先祖は福岡藩分限帳集成によると、初出は忠之公のとき一〇〇石の馬廻組、後年は明治初年長知公のときの一〇〇石・一ノ銃士・帆足直一郎とあり、私の曾祖父です。幕末の写真も一枚だけですが残っています。

案内で、筑前黒田藩の大きな足跡の数々を、参加者全員が再認識し、事故もなく有意義なバスツアーとなりました。



山崎会長を囲んでの記念撮影

さまにだけ鎧を覚えていたとあって、本当かしらと思っていました。黒田新統家譜 斉隆記に帆足肥富は納戸頭であったこと、幼い斉隆公に陰流を教えたことなどが記されています(安永分限帳では肥留となっており七〇〇石)。先祖がいちばん華々しかったと、きのこと伝わっているのだと分かりました。親類の古老の話によると、黒田のお殿様が福岡にいられた時は不破氏のお宅に集まってお会いしていたということ。自分の先祖を知るために福岡藩の歴史を学び、平成二十二年に藤香会に入会させていただきました。これからも、ご法要や総会時の講話、歴史勉強会にも積極的に参加させていただきます。

### ちょっとうんちく

古文書に見る 如水公の法要

筆頭家老黒田播磨一正の日記に「嘉永癸丑六年秘記御当番」があります。西暦一八五三年で、

ペリィが浦賀に来航した年です。この年は如水公の二五〇回忌と忠之公の二〇〇回忌に当たり法要の内容が詳細に書かれています。如水公の法要には参列を希望する家臣が多く、希望者からその家に伝わる由緒書や如水公からの御判物を提出させて人選を行いました。法要は三月十八日から二十日まで三日間、それぞれ朝課、午課、晩課と行われ、特に十九日は暁八時半(午前三時)出宅して、七時半からの朝課にも参列します。式次第からも詳細に書かれ、現在とは違った法要が行なわれていたことが伺われます。また秋には水鏡権現(如水公)、聖照権現(長政公)の神祭も城内の御社で行われています。(天本孝久記)

### 編集後記

大河ドラマ「軍師官兵衛」放映の影響で黒田如水・長政両公にまつわる行事が多く、この号は行事の紹介ばかりとなりました。(天本)